

和納小学校学校田の 取り組み

(インタビュー)

校長 松野孝雄さんに聞く

編 集 部

山村漁村の豊かな自然を活用した学習活動の取り組みが注目されています。新潟市内では、「学校教育田事業」が始められ、農業に関わる体験活動や学習が進められています。

そこで、長期に渡り学校田を活用した学習活動に取り組んできた新潟市立和納小学校をお訪ねして、その取り組みの概要について取材しました。

編集部

問い1 現在、学校田を活用した教育活動は、どのように取り組まれていますか。

7・5aの広さの田んぼで、餅米の栽培をしています。毎年、5年生が担当しています。教育課程としては、社会科・総合的な学習の学習活動に位置付けています。「田植え」と「稲刈り」、収穫をした稻わらを天日で干す「はさ木掛け」に関する仕事については学習の時間に配当していますが、「脱穀」に関する仕事については、親子ボランティア活動としています。それは、この作業が土曜・日曜に行われているからです。この学校田は、学校から歩いて15分程の場所にあり、

農作業をするときは、徒歩で往復します。作業の進め方等については、JAの方から教えてもらっています。また、PTAの手助けがあります。

実際に児童が行っている農作業は、「田植え」と「稲刈り」です。田植えは、すべて「手植え」です。

市内で稲栽培を実施している小学校では、一部を手植え、残りは田植機を使って作業を進めているところが多いようです。

収穫した餅米を利用して11月に「もちつき大会」を実施しています。これは、全校児童が参加の学校行事です。

また、1月には、5年生だけで「収穫祭」を実施しています。ここには、お世話になったJAやPTAの方々をお招きして、一緒に収穫を祝います。この集会では、収穫した餅米を利用して「おこわ」をつくり食べます。この「おこわ」については、事前に準備します。「おこわ」に混ぜ込む人参を刻んだり、お米を炊いたりする調理は、近くにある改善センターの施設を利用してしています。この活動は、家庭科の調理学習にも結びついています。

問い2 どのような経過で学校田を活用した教育活動に取り組むことになったのでしょうか。児童の学校生活の実態や地域の要望など、その動機についてお聞かせ下さい。

和納小学校は創立140年を迎えました。校区は、平地がほとんどで、沢山の田んぼがあります。しかし、



写真1 和納小学校全景

近年、児童の家庭や祖父母の家庭で農業に従事している方は、少数となっています。

そこで、JAの方々の働きかけを受けて、20年以上前から、「田植え」「稲刈り」の体験活動を始めました。栽培のすべてを児童や学校が担当することは出来ませんので、他の作業については、田んぼを貸して下さっている地主の農家さんが担当しています。

栽培する稲の苗や肥料等は、JAから提供されますので、学校の予算を遣うことはありません。「もちつき大会」や「収穫祭」の行事に関わる経費は、学校が負担します。

地域やPTAの皆様からは、今後も継続して学校田を活用した教育活動を進めてもらいたいとの要望があります。児童の保護者の皆さんにとっても、「田植え」「稲刈り」「はさ木掛け」の作業に参加することが、初めての経験になっています。

問い3 とりわけ「学校田を活用した教育活動」は、学習内容や学びの質と関わって特徴的な点はどのようなことでしょうか。

座学でなく、農業に関わる作業を体験することで、学習への興味・関心が高まり、教育目標の実現に有効です。

学習のまとめとして、総合的な学習の時間に発表会を実施しています。

また、この地域には現在、保育園が1つ在ります。その園児が和納小学校に就学します。保育園児から小学生の期間、同じメンバーで学年が構成されます。また、近年は少子化が進み、1学年1学級となり、変化の乏しい学級編制にならざるを得ません。未知の人と接して、徐々に人間関係を築き上げていく経験が不足しがちです。

農作業を通じてJAやPTAの方々や接することで、コミュニケーション能力が育まれたらと思っています。学校への登校は、地域ごとの異年齢集団で行います。また、清掃作業についても、異年齢混合の編制です。異年齢集団との交流が児童の人との接し方を学ぶ機会になればとも思っています。

問い4 また、この取り組みをすすめるにあたって、地域や協力者との協議はどのようにすすめられましたか。



写真2 校舎の脇にも、ミニ学校田

この学校田の事業推進には、学校教育コーディネーターが関わり、J AやPTAとの連絡・調整・人の手配を進めています。

J Aは、農業に関する教育活動の推進に協力的で、様々な支援を行っています。また、新潟市の教育政策には「学校教育田事業」があり、新潟らしい教育の取り組みが行われています。今では、この事業の体験学

習に取り組んでいる小学校は、8割にもなっています。街中の小学校でもこの事業に取り組んでいます。周りに田んぼがありませんので、移動には貸し切りバスを使用します。そのため、車内にシートを敷き、汚れを防ぐそうです。当校は徒歩で行けますので、このような苦労はありません。

問い5 また、この取り組みをすすめるにあたって、残された課題をお聞かせ下さい。

今後は、「キャリア教育」「食育」など、他の教育分野の活動と連携を図りたいと思います。また、コミュニケーション能力を高めるために、どの様な手立てをとったらよいかを吟味し、学習計画に位置付けたいと思います。

(文責 こひがしよしお・所員)